

●医療提供施設の認定実務実習指導薬剤師に対するアンケート調査

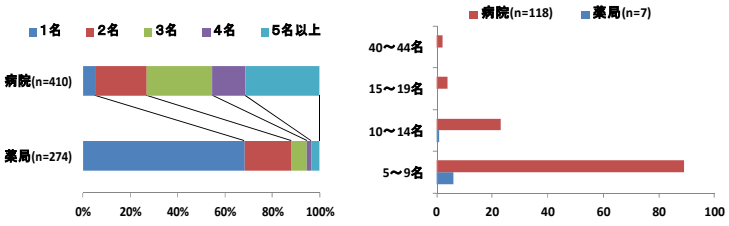


図 3-1. 認定実務実習指導薬剤師の人数 (右: 5名以上の具体的な人数)

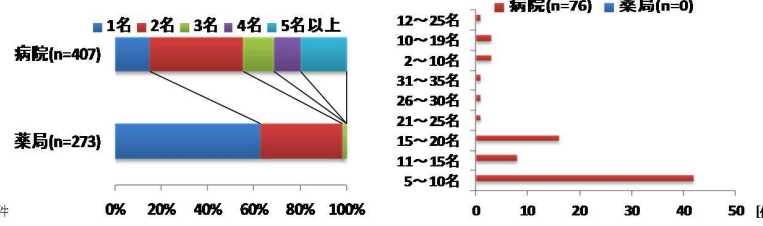


図 5-1-1. 1期あたりの平均実習生受け入れ人数 (右: 5名以上の具体的な人数)

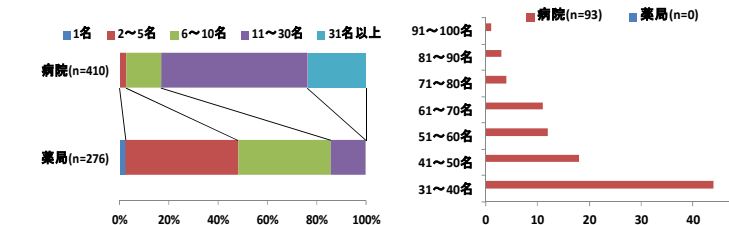


図 3-2. 薬剤師の全人数 (右: 31名以上の具体的な人数)

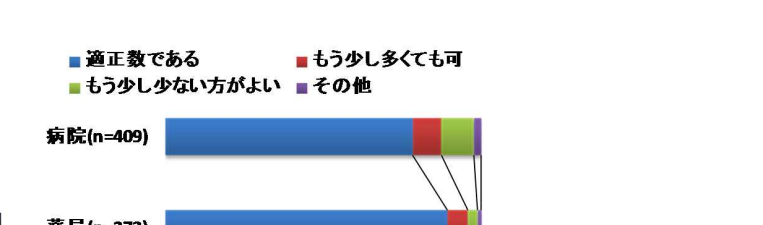


図 5-2. 実習生の受け入れ人数について

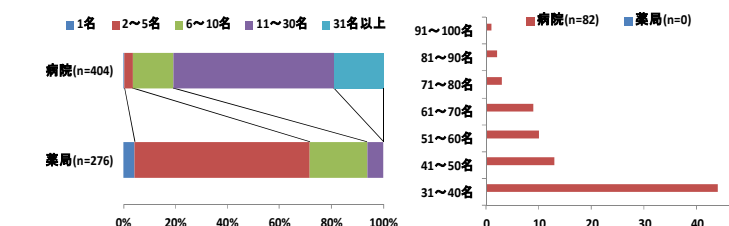


図 3-3. 常勤薬剤師の人数 (右: 31名以上の具体的な人数)

実習生の調整方法としては、病院では約7割の施設で地区調整機構を通して、約2割が大学から直接の依頼、1割弱がその他の方法であった。薬局では地区調整機構を通しての割合が8割強であり、大学からの直接の依頼、その他の方法がそれぞれ1割弱であった(図6)。その他の方法としては地区調整機構と大学からの直接の依頼の両方という答えがほとんどであった。実習生の調整方法に関する個別意見としては、9割を超える回答が実習時期や、実習生の通学距離、人数やマッチング方法について改善すべきとするものであった。特に多い意見は、実習生の希望を加味したマッチング方法(22件)および異なる大学からの実習生の受け入れ(ミキシング)の希望(19件)に関するものであった。

1

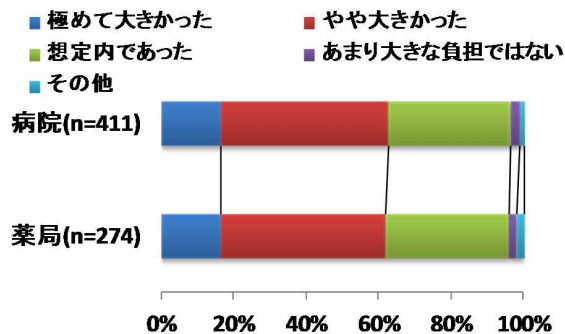


図 7-1. 実習中の業務への圧迫度

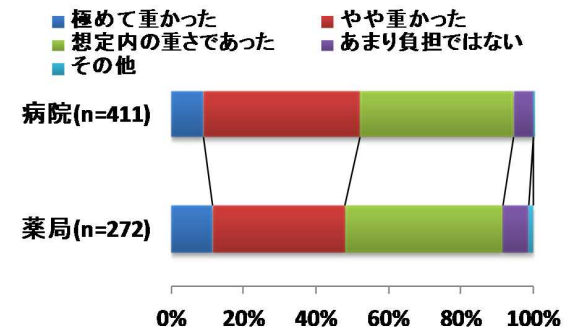


図 7-2. 実習による精神的負担度

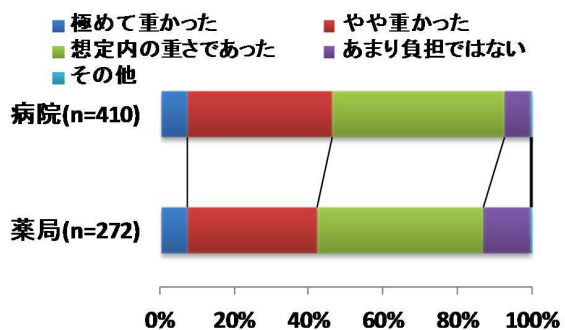


図 7-3. 実習による肉体的負担度

[薬局実習]

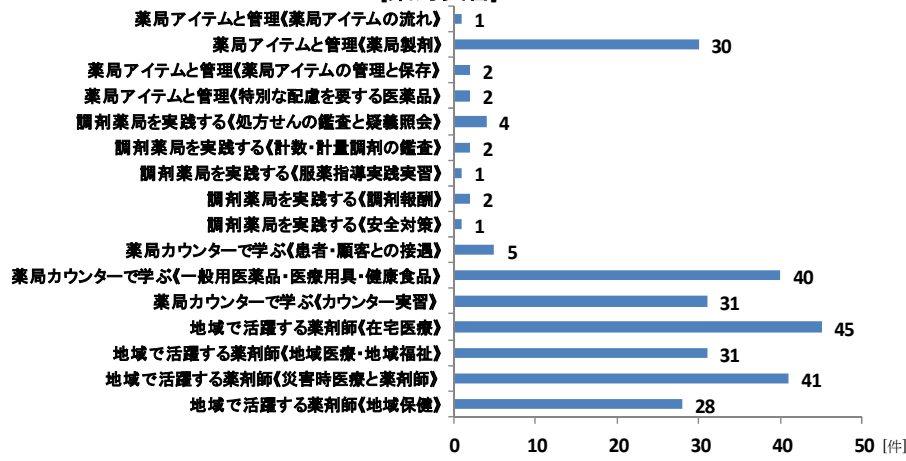


図 11-3.モデル・コアカリキュラムのうち十分実施できなかった実習項目:薬局実習(複数回答可)

[病院実習]

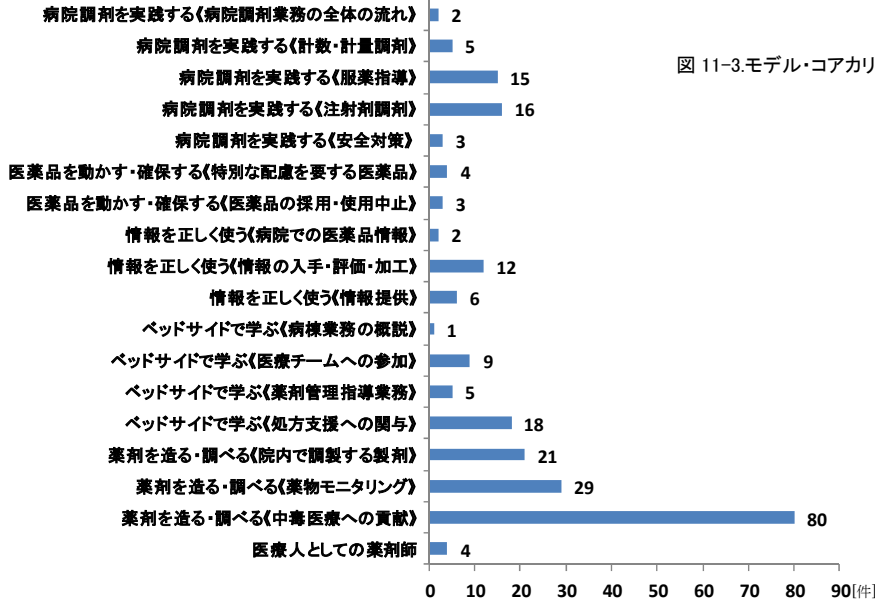


図 11-2.モデル・コアカリキュラムのうち十分実施できなかった実習項目:病院実習(複数回答可)

3

回答が多かった実習項目 [病院実習]	その代表的な対応例	回答が多かった実習項目 [薬局実習]	その代表的な対応例
12-1 回答数: 21件 薬剤を造る・調べる 《院内で調製する製剤》	<ul style="list-style-type: none"> 講義のみ 院内製剤が少ないため調製の実習は十分ではない。 模擬実習 無菌室もなく、無菌製剤を作ったこともないので、履修せず。 	14-2 回答数: 30件 薬局アイテムと管理 《薬局製剤》	<ul style="list-style-type: none"> 近隣で実施している薬局への依頼 薬剤師会主催の集合研修で対応 講義のみ 薬局製剤の取り扱いがないため、製剤購入し、模擬で作成。
12-2 回答数: 29件 薬剤を造る・調べる 《薬物モニタリング》	<ul style="list-style-type: none"> 講義のみ TDMは薬剤師が行っていないので、検査科のデータにより計算する。 パンコマイシン事例を解析ソフトを用いて、血中濃度を推測してみた。 過去の事例で説明 	17-2 回答数: 40件 薬局カウンターで学ぶ 《一般用医薬品・医療用具・健康食品》	<ul style="list-style-type: none"> 資料を印刷し読ませる。 座学、指導薬剤師の過去の経験を伝える事で対応 ロールプレイで対応 OTC販売に関しては実施している他薬局に依頼
12-3 回答数: 80件 薬剤を造る・調べる 《中毒医療への貢献》	<ul style="list-style-type: none"> 講義のみ SGD いくつかの事例を挙げて、対応策を討議した。 同一法人の他病院で実習した。 大学の事前実習において、十分対応している。 解毒剤を使う症例がなくて困難。大量服薬の症例、医師からの中毒量の問い合わせの検討を行った。 特殊製剤を事例に実習(グルコン酸カルシウムゼリー:フッ化物皮膚暴露の体循環への吸収阻止) 	17-3 回答数: 31件 薬局カウンターで学ぶ 《カウンター実習》	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師会を通じて他薬局へ依頼 一般用医薬品を販売する頻度が少ないため、指導薬剤師が患者役となりシミュレーションした。 本部での集合実習やロールプレイ・筆記によるワークで対応
		18-1 回答数: 45件 地域で活躍する薬剤師 《在宅医療》	<ul style="list-style-type: none"> 他薬局へ依頼 集合研修で対応 介護福祉施設での薬の管理の見学 各種研究会に参加し、情報収集 資料のみで対応
		18-2 回答数: 31件 地域で活躍する薬剤師 《地域医療・地域福祉》	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師会の研修会にて対応 資料のみでの対応 多施設に受け入れてもらうことで居宅介護などの実習を行った。 薬剤師会主催の外部実習の利用
		18-3 回答数: 41件 地域で活躍する薬剤師 《災害時医療と薬剤師》	<ul style="list-style-type: none"> 地域薬剤師会の集合研修などで対応 座学のみでの対応 DMATに参加している薬剤師から講義して頂いた。 震災当時の薬剤師の救援活動を記した書籍を保管して説明、当時の調剤状況を示す書類も用いて説明
		18-4 回答数: 28件 地域で活躍する薬剤師 《地域保健》	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師会集合研修で対応 資料のみでの対応 講義とディスカッション、ロールプレイだけになった。

表2.モデル・コアカリキュラムのうち十分実施できなかった実習項目への対応例

4

8) 施設間の実習内容の違いについて

現在の病院・薬局実務実習は、実習施設の規模や性質によって実習内容や項目、実習深度に差があるという意見があり、これについての設問では、病院、薬局共に「実習施設間の「特徴」を生かして多施設間実習やグループ実習を推進するのが良いと思う」という回答が最も多かった。また、「格差」を狭めるために実務実習の標準化に向けた、交流会などを開催して、意見交換、情報交換を行う」、「将来的な医療の多様化を視野に入れて、1施設完結型の実習を見直す必要がある」という回答も相当数あった(図24)。

- 実習施設間の「格差」を狭めるために実務実習の標準化に向けた、交流会などを開催して、意見交換、情報交換を行う
- 実習施設間の「特徴」を生かして、多施設間実習やグループ実習を推進するのが良いと思う
- 将来的な医療の多様化を視野に入れて、1施設完結型の実習を見直すことが必要である
- よく判らない
- その他

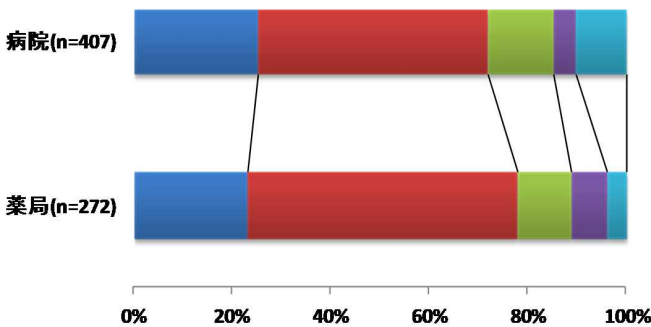
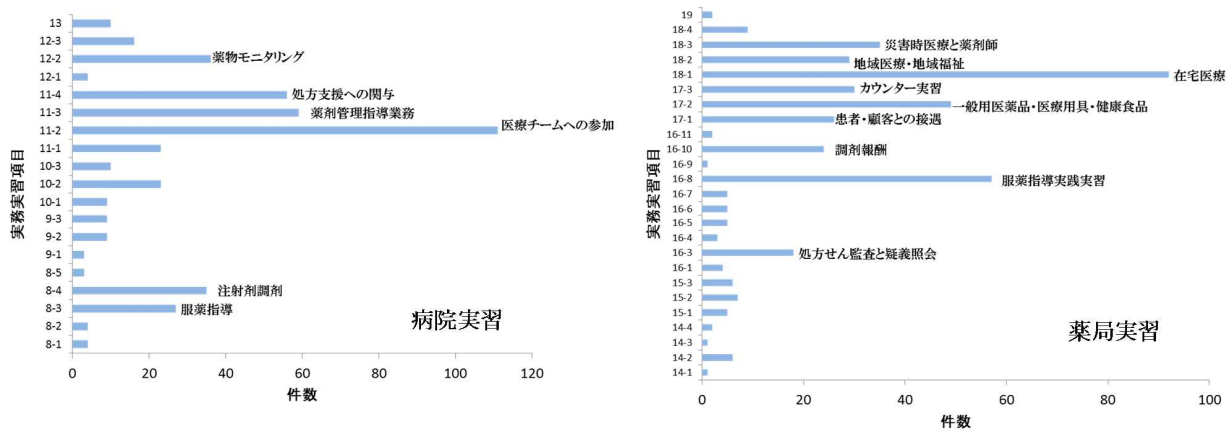
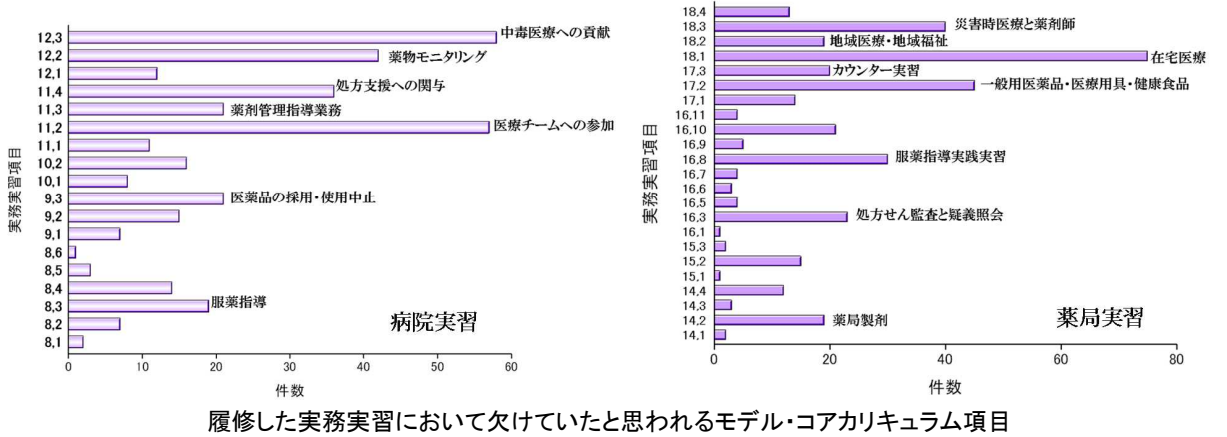


図 24.現在の病院・薬局実務実習は、実習施設の規模や性質によって、実習内容や項目、教育深度に差があるという意見について

●6年制課程卒業の勤務薬剤師に対するアンケート調査



履修した実務実習において強化すべきと思われるモデル・コアカリキュラム項目